

「ヒヤリ地図」作成にあたって、福山地区で851件のヒヤリ・ハット箇所に関する貴重な体験情報やご意見をお寄せいただきました。「ヒヤリ・ハット体験」に関するアンケート調査へのご回答、ご協力ありがとうございました。

第1位 引野町4丁目交差点

84件

上り線に右折レーンが無い、国道2号の中央線がくい違っている。

右側車線から、左側車線への無理な割り込みをする車両と接触しそうになる。対向車両と接触しそうになる。

第2位 福山郵便局前交差点

78件

沿道からの右左折車が多い、渋滞がひどい。

横断歩行者と接触の危険、前走車に追突しそうになる。

第4位 神島橋西詰交差点

49件

○交差点部が曲線で、急カーブ、急勾配であり、遮音壁もあるため、見通しが悪い。

●右折時に、対向車と接触しそうになる。

●歩行者・自転車を巻き込みそうになる。

遮音壁により視界不良

第5位 赤坂バイパス東口交差点

39件

○交差点部が曲線で見通しが悪い。

○交差点間隔が短く、右折滞留が隣の交差点まで影響。

●右折時に対向車と接触しそうになる。

●カーブ区間で車線変更時に接触の危険。

第6位 福山新橋西詰交差点

37件

○交差点が広い。○渋滞がひどい。○交差道路がくい違っている。○国道2号と交差道路に高低差があり見通しが悪い。

●右折時に対向車と接触しそうになる。

●横断歩行者・自転車と接触の危険。

●前走車に追突しそうになる。

買い物客・学生が多い

第3位 府中分かれ交差点

74件

○交差点部が曲線+右折レーンが2車線のため、見通しが悪い。

右折時に対向車と接触しそうになる。右左折時に歩行者・自転車と接触しそうになる。前走車に追突しそうになる。急な車線変更をする車両と接触の危険。



凡例

- 1位~3位
- 4位~10位
- 11位~20位

《21位以下のヒヤリ件数》

- 9件 △ 5件
- 8件 ▲ 4件
- 7件 ◇ 3件
- 6件

ヒヤリ地図 調べてなに?

地域の皆様からお伺いした「ヒヤリ・ハット体験」をもとに、事故の発生は少ないものの「体験」の多い地点や、その原因となる道路構造上の問題など、皆様にもご利用いただけるよう「ヒヤリ地図」としてとりまとめました。

これらの情報は、今後の交通安全対策に役立てていきます。是非この地図に記載されている「ヒヤリ・ハット箇所」をご確認下さい。そして通行の際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分ご注意ください。

「ヒヤリ・ハット体験」とは? 交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

第7位 明神町交差点

33件

交差点が曲線のため、見通しが悪い。交差点が広い、渋滞がひどい。

右折時に対向車と接触しそうになる。横断歩行者・自転車と接触の危険。

第8位 早戸交差点

32件

○下り線で車線減少。(2車線→1車線) ○バイパス入口のため速度が速い。

●並走している車両が急に割り込んでくる。

●右折時に対向車と接触しそうになる。

スピード 急な左折又はブレーキ

第9位 岩足橋北詰交差点

20件

隣接交差点の右折車が当交差点まで滞留、時差式信号。

無理な車線変更をする車両に追突しそうになる。無理な右折をする車両がいて危険

無理やり右折

第9位 紅葉町交差点

20件

○交差点部が曲線で見通しが悪い。○交差道路に右折青矢がない。

●右折時に対向車と接触しそうになる。

●右折時になかなか曲がれず、交差点内に取り残される。

交差点内に取り残される



ヒヤリマップ作成の目的

・国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取り組んでいます。
 ・今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみならず「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。

「ヒヤリハット体験」とは、交通事故には至らないものの、一歩間違えば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

・今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただきますとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリマップ」としてとりまとめました。

ヒヤリマップの活用方法

・お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無をご確認下さい。
 ・「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
 ・地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリマップ」の情報を関係者間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

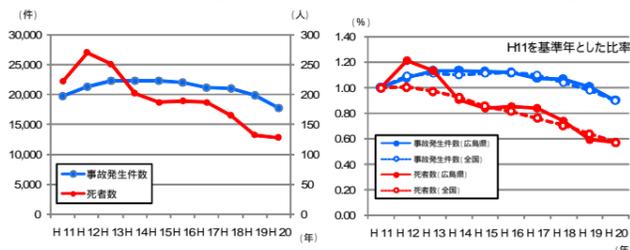
ヒヤリマップ・アンケートに関するお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所
 〒720-0031 広島県福山市三吉町4丁目4番13号
 TEL: (084)923-2620 FAX: (084)923-2517
 E-mail: fukuyama@cgr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故発生状況

交通事故発生状況

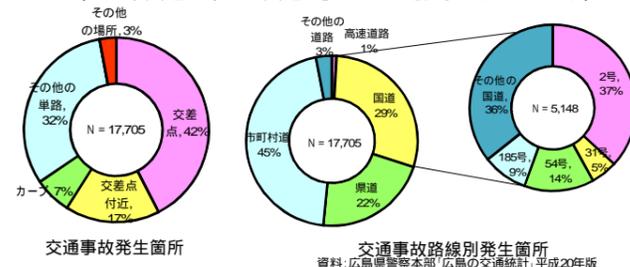
平成20年における広島県下の交通事故発生件数は年間約18,000件、10年前と比べて1割程度減少しています。
 広島県下の交通事故死者数は年間128人、平成12年と比べて半減しているものの、年間100人を超える尊い命が交通事故で失われています。



広島県の交通事故発生状況の推移 事故発生状況の推移比較(全国・広島県)
 資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

交通事故発生箇所

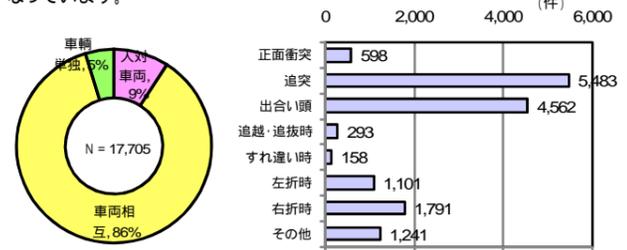
交通事故発生箇所では、交差点が42%と最も多く、次いで「その他の単路」が32%となっています。
 交通事故発生路線では、市町村道が45%と最も多く、国道が29%となっています。また、国道の中では国道2号が37%と最も多くなっています。



交通事故発生箇所 交通事故発生路線別発生箇所
 資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

交通事故類型

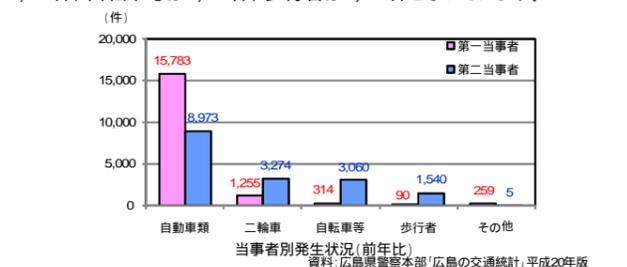
類型別の交通事故発生状況を見ると、車両相互が86%と最も多く、人対車両は9%、車両単独は5%となっています。
 車両相互事故の内訳では、追突(5,483件)、出会い頭(4,562件)が多くなっています。



交通事故類型別発生状況 車両相互事故の内訳
 資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

当事者別交通事故発生状況

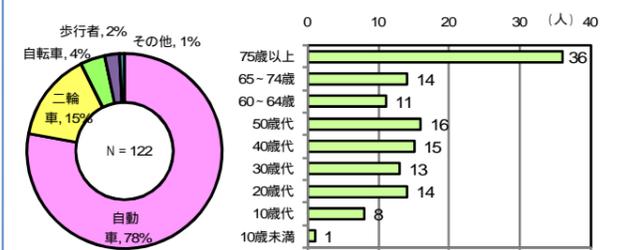
第一当事者で最も多いのは乗用車の15,783件で、二輪車の1,255件がこれに続いています。
 第二当事者で最も多いのも乗用車の8,973件であり、以下、二輪車が3,274件、自転車等が3,060件、歩行者が1,540件となっています。



当事者別発生状況(前年比) 資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

死亡事故の状況

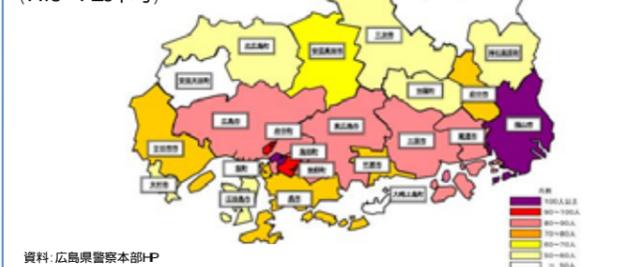
状態別の交通死亡事故発生件数をみると、自動車乗車中が78%と最も多く、二輪車が15%、自転車等が4%、歩行者が2%となっています。
 年齢別の交通事故死者数では、75歳以上が36人、65~74歳が14人、65歳以上の方が約4割を占めています。



状態別交通死亡事故発生件数 年齢別交通事故死者数
 資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

人口1万人当たりの居住地別交通事故死傷者数の割合

人口1万人当たりの交通事故死傷者数が多いのは福山市と海田町で、ともに100人を上回っています。(H16~H20平均)



資料: 広島県警察本部「P」

交通安全アンケート(ヒヤリ体験アンケート)の調査結果

地区別ヒヤリ・ハット体験件数

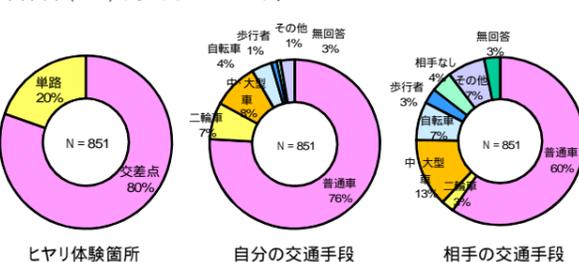
ヒヤリ体験の地区別内訳をみると、福山地区が851件、三原・尾道地区が315件となっています。

地区	ヒヤリ体験件数
福山地区	851件
三原・尾道地区	315件
箇所不明・その他地区	35件
合計	1,201件

ここでは交通安全アンケートをもとに、皆さんからお寄せ頂いたヒヤリ・ハット体験のうち、福山地区(国道2号)のヒヤリ体験内容についてみていきます。(ヒヤリ体験の多い箇所については表面参照)

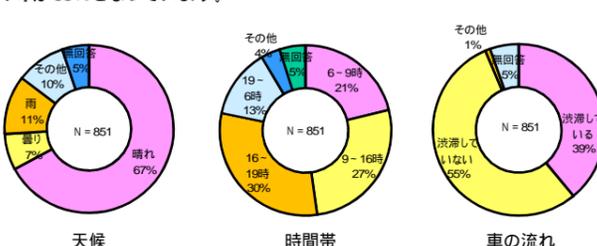
場所及び利用交通手段

ヒヤリ体験の箇所は、交差点が80%、単路が20%となっています。自分の交通手段では普通車が76%と最も多く、以下、中・大型車(8%)、二輪車(7%)が多くなっています。
 相手の交通手段では、普通車(60%)、中・大型車(13%)に続いて自転車(7%)が多くなっています。



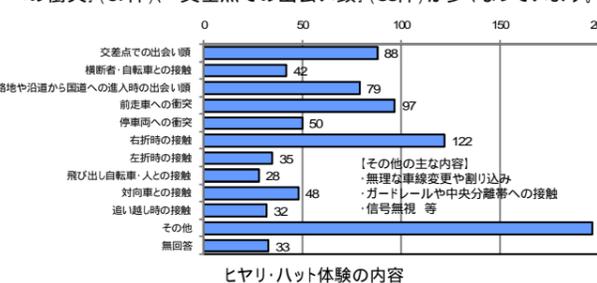
ヒヤリ・ハット体験時の状況

ヒヤリ・ハット体験時の天候は、晴れが67%と最も多くなっています。時間帯では、朝夕ともに20~30%程度となっています。ヒヤリ体験時の車の流れは、「渋滞している」が39%、「渋滞していない」が55%となっています。



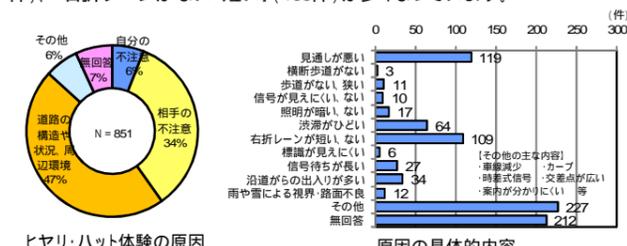
ヒヤリ・ハット体験の内容(起こりそうになった内容)

ヒヤリ・ハット体験の内容では「その他」が最も多くなっており、道路状況や交通状況に応じて体験内容は様々となっています。それ以外では、「右折時の接触」が122件と最も多く、続いて「前走車への衝突」(97件)、「交差点での出会い頭」(88件)が多くなっています。



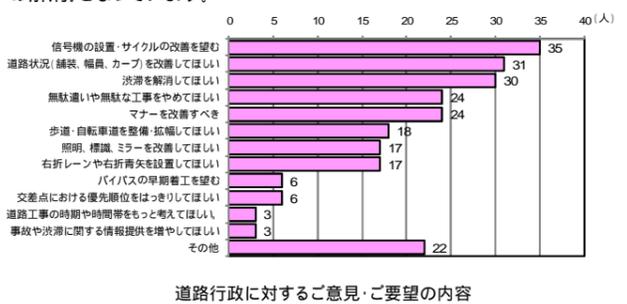
ヒヤリ・ハット体験の原因と具体的内容

ヒヤリ・ハット体験の原因では「道路の構造や状況、周辺環境」が47%と最も多くなっています。原因の具体的内容としては「その他」が多い他、「見通しが悪い」(119件)、「右折レーンがない・短い」(109件)が多くなっています。



道路行政に対するご意見・ご要望

道路行政に対するご要望の第1位は「信号機の設置・サイクルの改善」、第2位は「道路状況(舗装・幅員・カーブ)の改善」、第3位は「渋滞の解消」となっています。



みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めていきます!

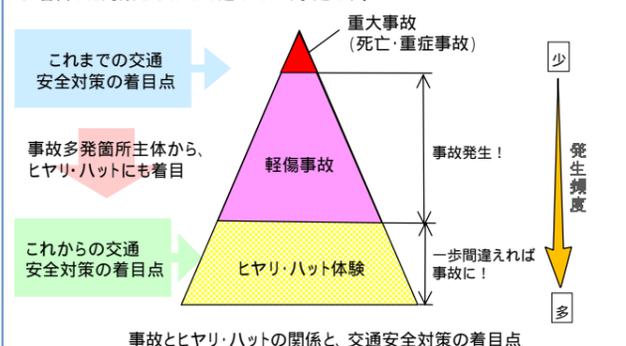
1件の重大事故発生には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが!

・広島県内では、122件の死亡事故(平成20年実績)を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に!

・これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所(事故率が高い箇所)に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題があります。

・重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所及び対策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。



アンケートにご協力頂いた方、誠にありがとうございました。

交通安全 ヒヤリ地図

三原・尾道地区

ヒヤリ・ハット体験情報

「ヒヤリ地図」作成にあたって、三原・尾道地区で315件のヒヤリ・ハット箇所に関する貴重な体験情報やご意見をありがとうございました。「ヒヤリ・ハット体験」に関するアンケート調査へのご回答、ご協力ありがとうございました。

第1位 尾道バイパス西口

○旧道から来る車両が、一時停止を無視して本線へ進入。
○沿道からの大型車の出入りが多い。

●国道2号との合流時に接触しそうな。

第2位 長谷橋東詰交差点

○沿道出入り車両が多い。
○カーブ区間の交差点に信号がない。
○下り線に右折レーンがない。

●交差道路から国道2号への進入が困難。(接触の危険)
●国道2号から沿道への右折時に接触・追突の危険。

第3位 尾道バイパス終了点部

○カーブが急。
○渋滞がひどい。
○カーブや遮音壁で見通しが悪い。

●対向車に接触しそうな。
●渋滞している車両に追突しそうな。

第4位 本市橋北詰

○上り線に右折レーンがない。
○橋に歩道がなく、幅員が狭い。
○カーブ区間に交差点がある。

●右折車のために滞留ができ、前走車に追突しそうな。
●通学の自転車等と接触しそうな。

第4位 三原バイパス終了点部

○バイパス・現道の合流部から交差点までの距離が短い。

●合流時に沿道からの出入り車両と接触しそうな。
●合流に気を取られていると、信号待ちで停車中の車両に追突しそうな。



凡例

- 1位～3位
- 4位～10位
- 11位～20位

《21位以下のヒヤリ件数》

- 3件
- 2件

第6位 帝人通り交差点

信号待ちが長い、歩行者の青時間が短い。

車と歩行者が赤信号でも無理して渡るため、接触の危険。

第7位 糸崎町8ローソン前

沿道からの出入り車両が無理に国道2号へ進入。路肩が狭い。

沿道出入り車両と接触しそうな。
前走車が急に停止して追突しそうな。
路肩を走る自転車と接触しそうな。

第8位 防士トンネル西側区間

防士トンネルの西側がカーブしていて見通しが悪い。

向峠の交差点から渋滞している車両に追突しそうな。
車線をはみ出す車両と接触しそうな。
ランプ合流部で接触の危険。

第9位 東城分かれ交差点

カーブ区間の交差点で見通しが悪い。

横断歩行者や自転車と接触しそうな。
右折車と直進車が衝突の危険。

第9位 栗原IC

栗原ICオランプで、右折レーンに行こうとする車両が自車の横ぎりぎりをすり抜けていき、加速車線に大型トラックの駐車がある。

右折車と接触しそうな。
本線に入るのに非常に危険(接触の危険性あり)。

ヒヤリ地図 について

地域の皆様からお伺いした「ヒヤリ・ハット体験」をもとに、事故の発生は少ないものの「体験」の多い地点や、その原因となる道路構造上の問題など、皆様にもご活用いただけるよう「ヒヤリ地図」としてとりまとめました。これらの情報は、今後の交通安全対策に役立てていきます。是非この地図に記載されている「ヒヤリ・ハット箇所」をご確認下さい。そして通行の際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分ご注意ください。

「ヒヤリ・ハット体験」とは?

交通事故には至らないものの、一歩間違えれば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。



ヒヤリマップ作成の目的

- ・国道を管理する国土交通省では、誰もが安全に安心して利用できる国道を目指し、交通事故を抑制するための交通安全対策に取り組んでいます。
- ・今後さらに進める交通安全対策に役立てることを目的として、管理する国道を対象に、日頃から道路を利用されている地域のみならず「ヒヤリ・ハット体験」についてお伺いするアンケート調査を実施しました。

「ヒヤリハット体験」とは、交通事故には至らないものの、一歩間違えば交通事故になる可能性が高かった体験のことです。

- ・今回の調査で皆様からお寄せいただいた「ヒヤリ・ハット体験」に関する情報は、今後の交通安全対策を進める際の参考とさせていただきますとともに、地域の皆様の安全な道路利用にもご活用頂けるよう「ヒヤリマップ」としてとりまとめました。

ヒヤリマップの活用方法

- ・お出かけ前に、目的地までのルート上の「ヒヤリ・ハット箇所」の有無をご確認下さい。
- ・「ヒヤリ・ハット箇所」を通行する際は、「ヒヤリ・ハット体験」を参考に十分注意して走行して下さい。
- ・地域や職場、学校などで交通安全活動等を行う際、この「ヒヤリマップ」の情報を関係者間で共有することにより、交通安全の向上に役立てて下さい。

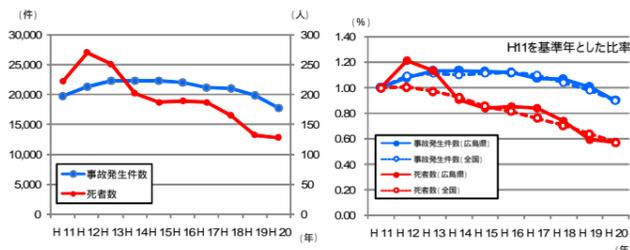
ヒヤリマップ・アンケートに関するお問い合わせ先

国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所
〒720-0031 広島県福山市三吉町4丁目4番13号
TEL: (084)923-2620 FAX: (084)923-2517
E-mail: fukuyama@cgr.mlit.go.jp

広島県下の交通事故発生状況

交通事故発生状況

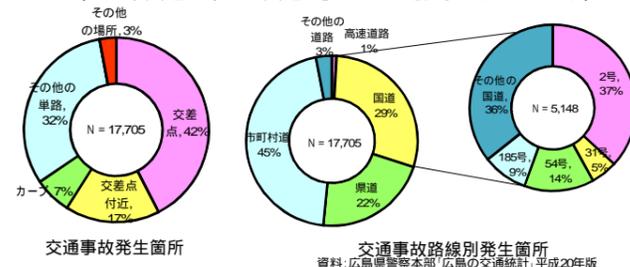
平成20年における広島県下の交通事故発生件数は年間約18,000件、10年前と比べて1割程度減少しています。広島県下の交通事故死者数は年間128人、平成12年と比べて半減しているものの、年間100人を超える尊い命が交通事故で失われています。



広島県の交通事故発生状況の推移 事故発生状況の推移比較(全国・広島県)
資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

交通事故発生箇所

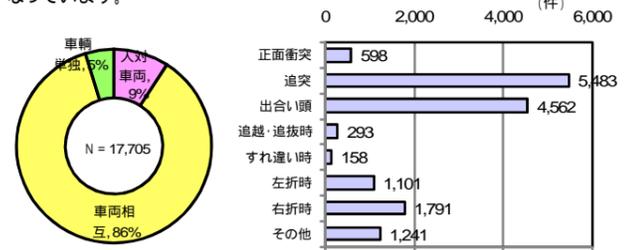
交通事故発生箇所では、交差点が42%と最も多く、次いで「その他の単路」が32%となっています。交通事故発生路線では、市町村道が45%と最も多く、国道が29%となっています。また、国道の中では国道2号が37%と最も多くなっています。



交通事故発生箇所 交通事故路線別発生箇所
資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

交通事故類型

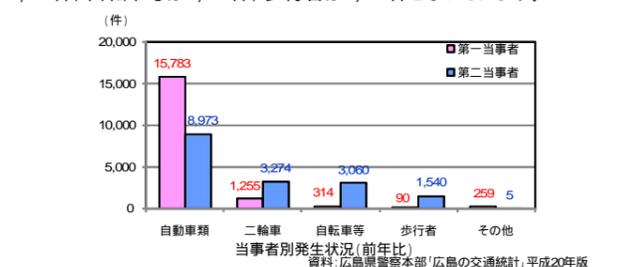
類型別の交通事故発生状況を見ると、車両相互が86%と最も多く、人対車両は9%、車両単独は5%となっています。車両相互事故の内訳では、追突(5,483件)、出会い頭(4,562件)が多くなっています。



交通事故類型別発生状況 車両相互事故の内訳
資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

当事者別交通事故発生状況

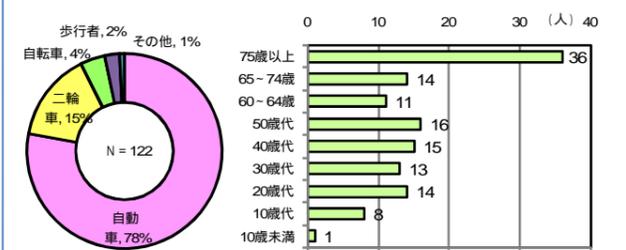
第一当事者で最も多いのは乗用車の15,783件で、二輪車の1,255件がこれに続いています。第二当事者で最も多いのも乗用車の8,973件であり、以下、二輪車が3,274件、自転車等が3,060件、歩行者が1,540件となっています。



当事者別発生状況(前年比) 当事者別発生状況(前年比)
資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

死亡事故の状況

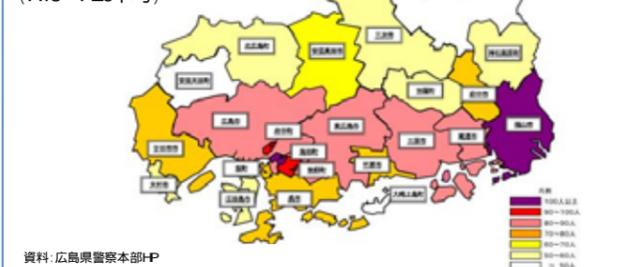
状態別の交通死亡事故発生件数を見ると、自動車乗車中が78%と最も多く、二輪車が15%、自転車等が4%、歩行者が2%となっています。年齢別の交通事故死者数では、75歳以上が36人、65~74歳が14人、65歳以上の方が約4割を占めています。



状態別交通死亡事故発生件数 年齢別交通事故死者数
資料: 広島県警察本部「広島県の交通統計」平成20年版

人口1万人当たりの居住地別交通事故死傷者数の割合

人口1万人当たりの交通事故死傷者数が多いのは福山市と海田町で、ともに100人を上回っています。(H16~H20平均)



資料: 広島県警察本部「F

交通安全アンケート(ヒヤリ体験アンケート)の調査結果

地区別ヒヤリ・ハット体験件数

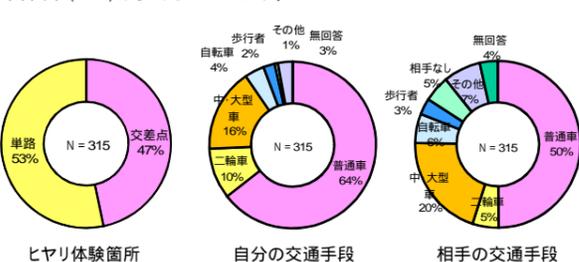
ヒヤリ体験の地区別内訳をみると、福山地区が851件、三原・尾道地区が315件となっています。

地区	ヒヤリ体験件数
福山地区	851件
三原・尾道地区	315件
箇所不明・その他地区	35件
合計	1,201件

ここでは交通安全アンケートをもとに、皆さんからお寄せ頂いたヒヤリ・ハット体験のうち、三原・尾道地区(国道2号)のヒヤリ体験内容についてみていきます。(ヒヤリ体験の多い箇所については表面参照)

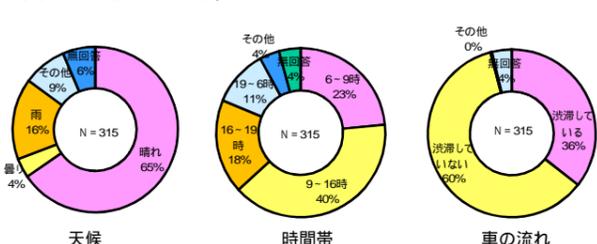
場所及び利用交通手段

ヒヤリ体験の箇所は、交差点が47%、単路が53%となっています。自分の交通手段では普通車が64%と最も多く、以下、中・大型車(16%)、二輪車(10%)が多くなっています。相手の交通手段では、普通車(50%)、中・大型車(20%)に続いて自転車(6%)が多くなっています。



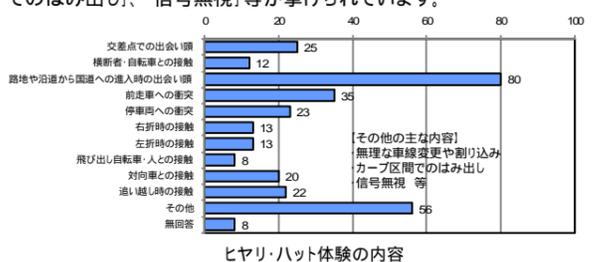
ヒヤリ・ハット体験時の状況

ヒヤリ・ハット体験時の天候は、晴れが65%と最も多くなっています。時間帯では、昼間が40%、夕方・夕方が20%程度となっています。ヒヤリ体験時の車の流れは、「渋滞している」が36%、「渋滞していない」が60%となっています。



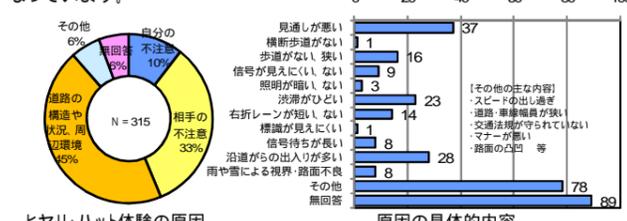
ヒヤリ・ハット体験の内容(起こりそうになった内容)

ヒヤリ・ハット体験の内容では「路地や沿道から国道への進入時の出会い頭」が80件と最も多くなっており、続いて、「その他」(56件)、「前走車への衝突」(35件)、「交差点での出会い頭」(25件)となっています。その他の内容としては、「無理な車線変更や割り込み」、「カーブ区間でのみ出し」、「信号無視」等が挙げられています。



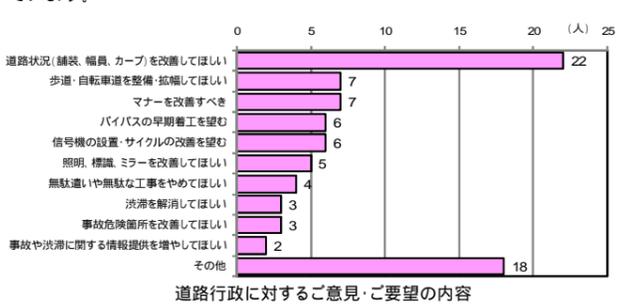
ヒヤリ・ハット体験の原因と具体的内容

ヒヤリ・ハット体験の原因では「道路の構造や状況、周辺環境」が45%と最も多くなっています。原因の具体的内容としては「その他」が多い他、「見通しが悪い」(37件)、「沿道からの出入りが多い」(28件)、「渋滞がひどい」(23件)が多くなっています。



道路行政に対するご意見・ご要望

道路行政に対するご要望の第1位は「道路状況(舗装・幅員・カーブ)の改善」、第2位は「歩道・自転車道の整備・拡幅」、「マナーの改善」となっています。



みなさまのヒヤリ・ハット体験を参考に交通事故対策を進めていきます!

1件の重大事故発生には、その何百倍ものヒヤリ・ハットが!

広島県内では、122件の死亡事故(平成20年実績)を含む重大事故が発生していますが、一般的に、重大事故の発生件数は交通事故全体の中では氷山の一角に過ぎず、その背景には、何十倍もの軽傷事故と、何百倍ものヒヤリ・ハット体験が発生しているといわれています。

事故多発箇所主体の対策から、ヒヤリ・ハット箇所にも着目した対策に!

これまでの交通安全対策は、死傷事故が多発している箇所(事故率が高い箇所)に着目した対策が主体でした。これらの対策の結果、死者数の減少などの事故削減効果が現れつつあります。しかしながら、道路利用者が危険を感じていても事故が発生していない箇所については、危険箇所として着目されていないという問題がありました。

重大事故を未然に防ぐには、日頃から不安全な状態や行為を認識し、ヒヤリ・ハットの段階で地道に対策を考え、実行していくことが重要です。そのため、今後の交通安全対策では、事故多発箇所及び対策に加えて、ヒヤリ・ハット箇所に着目した対策もあわせて進めていく予定です。

